

第2章 人を育むまちづくり

第1節 健康と元気を支えるまちづくり

- 1 町民の健康づくり
- 2 国民健康保険制度の適正な運営
- 3 後期高齢者医療制度の適正な運営
- 4 介護保険制度の適正な運営
- 5 国民年金制度の適正な運営

第2節 みんなで支え合うまちづくり

- 1 地域福祉の推進
- 2 高齢者福祉の充実
- 3 障害者福祉の充実
- 4 子ども・子育て支援の充実
- 5 医療福祉の充実

第3節 豊かな人づくり

- 1 幼児教育の充実
- 2 学校教育の充実
- 3 児童生徒の健康管理と安全対策

第4節 いつでもどこでもだれでも学べるまちづくり

- 1 生涯にわたって学べる環境づくり
- 2 社会全体で取り組む教育の推進
- 3 スポーツの振興
- 4 文化芸術活動の推進と文化財保護

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	健康づくり課	
副担当課	課		
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	1	健康と元気を支えるまちづくり
	項	1	町民の健康づくり

1 目指すまちの姿

高齢になっても、いきいきと暮らせるように、すべての町民が主体的に健康づくりに取り組み、町全体の健康づくりへの気運が高まっています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況		
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
健康づくりの推進 2111	町民が自分の健康に関心を持ち、主体的に健康づくりに取り組んでいます。	健康教育実施回数	目標	120回	130回	140回	150回	155回	C	生活習慣病予防のための「健康あみ5つのあいことば」を軸に、幅広い年齢層の対象者に対し、それぞれの健康課題に沿った健康教育を行う必要がある。
			実績	116回/年	119回	22回	11回	15回		
健康診査・健康相談の充実と活用 2112	町民ががんや生活習慣病の予防のために健康診査を受け、自らの健康管理を行っています。	大腸がん検診精密検査受診率	目標	65%	67%	70%	72%	75%	C	健康診査や精密検査の重要性に関する情報提供を行い、受診勧奨するとともに、受診しやすい環境を整えた。また、健診後は、健診結果を生かして健康的な生活習慣に取り組みるように助言・指導を行う必要がある。
			実績	59%	68.3%	70.1%	71.3%	66.5%		
		大腸がん検診受診者延べ人数	目標	2,800人	2,800人	2,800人	2,800人	2,800人	A	
			実績	2,711人/年	2,826人	2,261人	2,399人	2,762人		
		健診事後相談・事後指導実施延べ人数	目標	120人	140人	160人	180人	200人	C	
			実績	109人/年	113人	66人	72人	87人		
母子保健事業の充実 2113	母親などが育児に関する不安を解消し、母子共に健康な状態で生活しています。	生後4ヶ月までの乳児世帯への訪問率	目標	98%	98%	98%	98%	98%	A	妊娠期からの切れ目のない支援を目指し、妊娠届け時に母子手帳を交付しながら面談を実施した。出産後、全数を訪問することを目指し、保護者の不安を軽減する取り組みを実施する必要がある。
			実績	98.7%	99.0%	97.9%	95.0%	95.1%		
		妊娠届時の面談率	目標	100%	100%	100%	100%	100%	A	
			実績	20.4%	100%	100%	100%	100%		
感染症の予防 2114	感染症の発生及びまん延がなく、町民が健康に暮らしています。	MR（麻しん風しん混合）2期接種率	目標	95%	95%	95%	95%	95%	A	広報やホームページ、個別支援の場で接種勧奨を実施した。感染のまん延と重症化を防ぐため継続した取り組みを行う必要がある。
			実績	95.2%	95.9%	100.7%	94.9%	95.3%		
			目標							
			実績							

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	国保年金課	
副担当課	課		
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	1	健康と元気を支えるまちづくり
	項	2	国民健康保険制度の適正な運営

1 目指すまちの姿

国民健康保険加入者が、自らの健康に気を配り、必要な時に安心して医療を受けることができるまちになっています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値						個別施策の達成状況			
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題		
総合的な健康管理の推進 2121	町民が自己健康管理を行い、生活習慣病予防及び早期発見に町全体で取り組んでいます。	特定健康診査の受診率	目標	38%	39%	40%	41%	42%	C	特定健診及び特定保健指導の受診率は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、横ばい状態である。受診率を上げるためには、町民に対して、勧奨通知等を送付し、健康に対する自己管理意識の啓発を図っていく必要がある。		
			実績	36.2%	35.1%	23.0%	28.4%	32.6%			34.3%	
		特定保健指導の実施率	目標	20%	25%	30%	35%	40%			C	特定保健指導は、特定健診受診後に指導を開始する。最初の指導は受けるが2回目から指導を受けない受診者が多い。看護師や保健師の架電により、実施率の向上に努める。
			実績	15%	21.8%	14.1%	14.0%	17.8%				
国民健康保険の健全運営 2122	国民健康保険制度が理解され、公平公正に課税され、サービスが安定して提供されています。	収納率	目標	92.5%	92.5%	92.5%	93.0%	93.0%以上	C	国民健康保険制度を周知し、制度の重要性・必要性を理解してもらい、納税意識の向上を図る必要がある。		
			実績	92.5%	92.3%	92.4%	92.7%	92.6%				
			目標									
			実績									
			目標									
			実績									
			目標									
			実績									
			目標									
			実績									

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	C

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	国保年金課	
副担当課	課		
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	1	健康と元気を支えるまちづくり
	項	3	後期高齢者医療制度の適正な運営

1 目指すまちな姿

高齢者が自らの健康管理に積極的に取り組み、必要な時に安心して医療を受けることができるまちになっています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況		
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
高齢者保健事業の 推進 2131	高齢者が健康について自己管理を行い、健康寿命が長いまちになっています。	高齢者健診の受診率	目標	19%	19%	20%	21%	22.0%	B	被保険者数の増加に比べ、受診者の伸びが低く受診率は前年度を下回る結果となった。令和6年度は健康づくり課と連携し一体的事業の一環として未受診者勧奨を行い、受診率向上を目指す。
			実績	18.7%	19.5%	12.7%	19.1%	21.9%		
後期高齢者医療 制度の安定した 運営 2132	高齢者が安心して医療を受けることができるまちになっています。	制度の周知の種類	目標	5件	5件	5件	5件	5件以上	A	令和5年度より滞納整理を実施したが、前年度を下回る収納率の結果となった。被保険者数の増加に伴い滞納者が増加しており、また保険料が上がっているため、一人当たりの滞納額が増え、収納率も低くなっている。支払われる保険料により、後期高齢者医療制度が運営されていることを理解していただき、納付を促していく。
			実績	6件	6件	6件	6件	6件		
		後期高齢者医療 保険料の収納率	目標	99.4%	99.4%	99.4%	99.4%	99.4%以上	A	
			実績	99.5%	99.19%	99.28%	99.48%	99.52%		
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	高齢福祉課	
副担当課	課		
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	1	健康と元気を支えるまちづくり
	項	4	介護保険制度の適正な運営

1 目指すまちの姿

介護を必要とする人に適切な介護サービスが提供され、高齢者が住み慣れた地域で安心して日常生活を送っています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値						個別施策の達成状況		
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題	
介護保険サービスの 充実 2141	要支援、要介護認定を受けた高齢者が、必要な時に適切なサービスを受け、安心して日常生活を送っています。	介護保険サービス 利用率	目標	/	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	A	介護を必要とする人がサービスを適切に利用することが出来るよう、引き続きニーズに応じた多様なサービスの充実と周知を図る。
			実績	85.6%	85.2%	87.8%	90.4%	89.3%	92.3%		
介護予防事業の 推進 2142	高齢者が自らの意識や周りの支援により、介護の必要な状態になることを防ぎ、活動的な生活を送っています。	要支援・要介護 認定率	目標	/	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%	A	高齢者が増えているため、要介護・要支援認定者の微増はやむを得ないとも考えられるが、要介護状態になることを防ぐため、引き続きフレイル予防を始めとした介護予防事業の推進による高齢者の健康維持及び相談体制の充実を図る。
			実績	13.9%	14.3%	14.0%	13.9%	14.2%	14.5%		
介護保険の健全 な運営 2143	介護サービスを必要としている人が、速やかにサービスの提供や介護給付を受けられるようになっています。	保険料の収納率	目標	/	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	B	微減してはいるが、保険料全体の収納率は横ばいを維持している。今後、収納率を上げるため、口座振替・キャッシュレス決済を推進し収納対策を強化する。過年度分保険料の滞納対策について、収納率を上げるための工夫改善を図る。
			実績	96.4%	96.8%	96.5%	97.8%	97.9%	97.8%		
		30日以内の認定 決定率	目標	/	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	C	令和3年度以降は30日以内の認定決定率が減少している。要因の分析と業務改善を図る。
			実績	42.9%	47.8%	63.0%	46.7%	45.2%	35.6%		
安心して暮らせる 地域づくり 2144	高齢者の誰もが、住み慣れた地域で様々な人に見守られながら健康で安心した生活を送っています。	認知症サポーター の養成者数	目標	/	600人	650人	700人	750人	800人	B	コロナ禍で養成講座の実施が減少していたが、行政区等への働きかけにより、開催数を増やし、正しい知識の普及を進める。認知症の人を見守る地域づくりの取組として、チームオレンジの設置に向けて、通いの場等と連携しながら、適切な支援に繋げていく。
			実績	568人	483人	113人	69人	218人	297人		
			目標	/							
			実績								
			目標	/							
			実績								

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必 要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	国保年金課		
副担当課	課			
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり	
	節	1	健康と元気を支えるまちづくり	
	項	5	国民年金制度の適正な運営	

1 目指すまちの姿

**町民が国民年金の制度や重要性について正しく理解し、受給権を確保することにより、
老後の安定した生活基盤を築いています。**

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況		
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
国民年金の加入促進と受給権の確保 2151	町民が、国民年金について制度や加入の重要性を正しく理解し、老後の安定した生活に向けて、受給権の確保を進めています。	制度の周知の種類	目標	8件	8件	8件	8件	5件以上	A	国民年金は、20歳以上60歳未満のすべての国民が加入となるが、学生納付特例や免除制度などを周知することで今後も受給権の確保に努めていく必要がある。
			実績	8件	8件	8件	8件	8件		
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	社会福祉課	
副担当課	課		
総合計画の位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	2	みんなで支え合うまちづくり
	項	1	地域福祉の推進

1 目指すまちの姿

地域の中で住民同士が共に支え合い・助け合い、いきいきと安全・安心に暮らしています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況			
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題	
地域で支え合い・助け合う仕組みづくりの推進 2211	地域の福祉ネットワークが構築され、お互いに連携して支え合い、助け合うまちになっています。	地域福祉の推進のための地区座談会の実施数	目標	/	3区	3区	3区	3区	16区	D	行政区単位での地区座談会から、中学校区単位の座談会に変更し実施したものの、必要な成果が得られなかったため、計画期間中は開催しなかった。 福祉部門では、「地域福祉計画」「障害者基本計画」「長寿福祉計画・介護保険事業計画」「子ども・子育て支援事業計画」「健康づくりプラン2.1」などの計画策定の際に、福祉専門分野におけるアンケート調査を実施していることから、今後は各アンケート調査結果や関係機関・団体へのヒアリング等により、重層的に意見を集約していく。
			実績	0区	0区	0区	0区	0区	0区		
活動の充実と社会福祉協議会との連携強化 2212	住民の地域福祉活動に対して適切な助言、情報提供が行える人材を育成するとともに、地域福祉活動の中核的機関となる社会福祉協議会の活動が活性化しています。	民生委員児童委員研修の延べ参加者数	目標	/	1,500人	1,500人	1,500人	1,500人	1,550人	B	地域での支援活動をスムーズに行えるよう、研修等を通して民生委員児童委員の資質の向上を図る。
			実績	1,481人/年	1,472人	871人	1,126人	1,224人	1,214人		
避難行動要支援者対策の推進 2213	要支援者一人ひとりについて、災害時に迅速に安否確認を行い、誰がどの避難所に避難するかを定め、必要な支援が実施できる体制が整っています。	避難行動要支援者登録制度登録者数	目標	/	1,500人	1,500人	1,500人	1,500人	1,500人	B	要支援者一人ひとりについて必要な支援が実施できるよう関係各課と連携し、体制整備を推進する。
			実績	1,236人	1,208人	1,191人	1,208人	1,849人	1,089人		
			目標	/							
			実績								
			目標	/							
			実績								
			目標	/							
			実績								

3 施策の進捗状況

指標等の成果を基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗が遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	高齢福祉課	
副担当課	課		
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	2	みんなで支え合うまちづくり
	項	2	高齢者福祉の充実

1 目指すまちの姿

高齢者が住み慣れた地域で様々な人に見守られながら、安心していきいきと生活できるまちになっています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況			
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題	
高齢者の生活支援 の推進 2221	高齢者が、生活に必要な適切なサービスや支援を受けることができ、介護者等の負担が軽減されています。	緊急通報体制等整備事業の利用者数	目標	/	160人	170人	180人	190人	200人	B	緊急通報装置の利用者数は横ばいの状況。高齢者の見守り体制を強化する人感センサーの導入は完了したが、利用者数を増やすための周知方法を検討する。 徘徊高齢者の早期発見と事故防止対策を充実させる為、GPS発信機やQRコードシートについて最新のシステムや他自治体での事例を調査研究し、実情やニーズにあった事業への見直しを検討する。 また、徘徊高齢者家族支援サービス事業について、チラシや広報紙等を用いて広く町民に周知する。
			実績	146人	149人	151人	145人	151人	150人		
		徘徊高齢者家族支援サービス事業の利用者数	目標	/	10人	10人	10人	10人	10人	A	
			実績	11人	11人	18人	20人	16人	19人		
生きがいつくり の推進 2222	高齢者が地域社会の一員として活動できる場が充実し、生きがいを感じながら活躍しています。	シルバークラブ結成数	目標	/	38クラブ	38クラブ	39クラブ	40クラブ	40クラブ	B	シルバークラブ数が減少傾向にある為、広報誌等を活用して活動をわかりやすく紹介し、シルバークラブ及び会員数の増加を図る。 福祉センターの老朽化が進んでいるため、計画的に修繕を行いながら、施設の長寿命化を図る。
			実績	38クラブ	37クラブ	37クラブ	35クラブ	35クラブ	34クラブ		
		福祉センターの年間延べ利用者数	目標	/	58,000人	58,000人	58,000人	58,000人	58,000人	B	
			実績	58,829人/年	50,642人	15,706人	16,813人	28,478人	28,374人		
			目標	/							
			実績								
			目標	/							
			実績								

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗が遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	社会福祉課	
副担当課	課		
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	2	みんなで支え合うまちづくり
	項	3	障害者福祉の充実

1 目指すまちの姿

障害者が住み慣れた地域や家庭で、安心して生きがいある生活を営めるまちになっています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況		
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
障害者福祉サービスの充実 2231	障害者が適切な支援やサービスを受け、安心して暮らしています。	相談支援事業利用者数	目標	2,700	2,750	2,800	2,850	2,900	B	福祉サービスを利用することで障害者が地域で自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、基本相談や計画相談の利用を推進する必要がある。 地域の社会資源が十分とは言えないなかで、障害者のニーズに寄り添ったサービスの提案ができるよう、相談支援事業者間の連携を推進する必要がある。
			実績	3,303人/年	4,629人	5,659人	6,386人	5,727人		
		相談事業者数	目標	5施設	5施設	5施設	5施設	5施設	A	
			実績	4施設	4施設	4施設	5施設	5施設		
障害者の生活の安定と自立支援 2232	障害者が地域の中で安定し、自立した社会生活を送っています。	障害福祉サービス受給者数	目標	359人	391人	401人	403人	405人	A	希望に沿ったサービスの提供により障害者が地域で自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、サービスの利用を促進する必要がある。 就労に向けて働く意識は向上しているが、障害の種類や特性によっては就労意欲の継続が難しく、就労定着が難しい。
			実績	338人	445人	461人	477人	556人		
		就労訓練支援サービス支給決定数	目標	137人	147人	160人	175人	190人	A	
			実績	180人/月	181人	211人	211人	263人		
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由	
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	A	相談事業者の目標数を超えるとともに町内各事業所数も増加し、障害者のニーズに応じたサービス提供を行うことができた。

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性	
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	I	おおむね目標を超える実績値を上げることができた。今後も現在の取組を継続して行う。

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	子ども家庭課	
副担当課	課	児童館・保育所、地域子育て支援センター	
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	2	みんなで支え合うまちづくり
	項	4	子ども・子育て支援の充実

1 目指すまちの姿

子育てに関する支援体制や保育環境が充実し、地域の中で安心して子育てができます。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値						個別施策の達成状況	
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
保育施設の充実 2241	保育施設等が充実し、皆が希望する施設で保育を受けています。	保育施設等入所定員	目標	1,164人	1,164人	1,164人	1,211人	1,244人	A	民間保育施設を新たに開設するための公募を行った。令和5年4月1日時点の待機児童を0人とし、令和6年4月1日も維持した。今後、待機児童0人状態の維持のほか、障害のある子どもの受け入れ及び潜在的待機児童対策が課題である。待機児童発生の一因である保育士不足に対処するため、私立保育施設の保育士等に対する助成金の交付などの処遇改善を図り、保育士の確保及び他市町村への流出防止を図った。
			実績	1,146人	1,164人	1,174人	1,156人	1,228人		
		待機児童数	目標	0人	0人	0人	0人	0人	B	
			実績	41人	31人	24人	1人	0人		
保育サービスの充実 2242	多様な保育ニーズに対応したサービスが整っています。	特別保育等の実施事業数	目標	33事業	34事業	35事業	36事業	37事業	A	
			実績	32事業	33事業	33事業	35事業	38事業		38事業
子育て支援体制の充実 2243	育児中の親が、子育てについて必要な情報を得ることができ、悩みを相談できるなど、支援を受けやすい環境が整っています。	すくすく広場の参加者数	目標	5,000人	5,500人	5,500人	5,500人	5,500人	B	HPやメール配信・情報紙等を活用して、子育て中の保護者や転入者へ情報提供を行っていく。児童館の利用方法や時間そして育児サークルの内容を、HPやあみメール・児童館新聞等で紹介していく。 参加者数が増加しているので、引き続き来館しやすい環境を整え遊びを提供していく。
			実績	4,946人/年	4,339人	716人	886人	1,728人		
		児童館サークル参加人数（親子）	目標	6,100人	6,100人	6,100人	6,100人	6,100人	B	
			実績	5,097人/年	4,676人	1,350人	2,188人	4,048人		
放課後子どもプログラムの充実 2244	学校・家庭・地域が協力し、すべての児童が放課後に安全で安心して活動できる居場所を確保しています。	放課後子ども教室の参加人数	目標	500人	500人	500人	500人	500人	A	地域社会の中で、放課後に子どもの安全で健やかな居場所づくりを推進するために、文部科学省の補助事業である「放課後子ども教室」事業と厚生労働省の補助事業である「放課後児童クラブ」事業を連携させ、小学生を対象とした放課後対策事業を一体的に実施する。 転入等による児童数の増加に伴い、ニーズが高まっている小学校がある。受入れ枠拡充のため、本郷小学校放課後児童クラブのR7年度の開設に向けた準備を進めている。（R5年度から運営を生涯学習課に移管。）
			実績	439人/年	500人	389人	587人	510人		
		放課後児童クラブ入会児童数	目標	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	B	
			実績	922人/年	989人	958人	973人	972人		
要保護児童対策の充実 2245	すべての児童が学校や地域の中で、適切な見守りを受けています。	要保護児童相談員訪問件数	目標	180件	180件	180件	180件	180件	B	
			実績	203件/年	377件	312件	251件	348件		281件

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗が遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	国保年金課		
副担当課	課			
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり	
	節	2	みんなで支え合うまちづくり	
	項	5	医療福祉の充実	

1 目指すまちの姿

町民が必要なときにいつでも安心して医療を受けることができるまちになっています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況		
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
医療福祉行政の充実 2251	医療福祉制度が町民に周知され、町内で安心して医療を受けられるようになっています。	医療福祉制度の周知の種類	目標	3件	3件	3件	4件	4件	A	医療機関や関係各課との連携を図りながら、引き続き医療福祉制度の周知をすすめる。
			実績	3件	3件	3件	4件	4件		
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							

3 施策の進捗状況

	区分		進捗状況区分を選択した理由
指標等の成果を 基に総合的に評価	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	A	・各種媒体により、町民に対して医療福祉制度の周知が図られている。

4 今後の方向性

	区分		方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
手段を見直す必要性を評価	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	I	制度も浸透しており、現状のまま継続し実行していく。

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	学校教育課	
副担当課	課	指導室	
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	3	豊かな人づくり
	項	1	幼児教育の充実

1 目指すまちの姿

幼児一人ひとりが家庭や地域の中で適切な教育を受け、健やかに成長しています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値							個別施策の達成状況	
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題	
幼児教育の推進 2311	幼児が家庭や地域の中で一人ひとりの個性に応じた適切な教育を受け、健やかに成長しています。	幼稚園就園奨励費補助金交付人数	目標	170人	-	-	-	-	-	C	令和元年度で私立幼稚園就園奨励費補助事業が廃止となった。 コロナ明けで講師の参集が困難だったため、1回の開催となった。情報交換等を行う時間の確保が課題となっている。
		実績	144人	114人	終了	-	-	-			
		幼児期の教育と小学校教育の連携・接続事業の実施回数	目標	3回	3回	3回	3回	3回	3回	C	
			実績	3回	3回	1回	1回	3回	1回		
			目標								
			実績								
			目標								
			実績								
			目標								
			実績								
			目標								
			実績								
			目標								
			実績								
			目標								
			実績								

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	指導室	
副担当課	課	学校教育課、学校給食センター、教育相談センター	
総合計画の位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	3	豊かな人づくり
	項	2	学校教育の充実

1 目指すまちの姿

児童生徒が、自ら学び考え、生きる力を養い、心も体も健康でいきいきと教育を受けています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況			
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題	
豊かな心と確かな学力の定着を目指した教育の推進 2321	児童生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得し、自ら考え課題を解決する力が備わるとともに、生命を大切にする豊かな心を持ち、将来に向けて健やかに成長しています。	児童生徒の授業理解度（国語・算数・数学）	目標	78.6%	80%	80%	80%	80%	A	日々の授業を通して、児童生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得し、自ら考え課題を解決する力が育っている。今後も生命を大切にする豊かな心を持ち、知・徳・体のバランスの取れた児童生徒の育成を目指していく。	
		実績	76% (H29)	78.6%	—	81%	82.2%	83.6%			
		人が困っている時は進んで助けると答えた児童生徒の割合	目標	86.9%	90%	90%	90%	90%			A
		実績	78% (H29)	86.9%	—	92.7%	87.3%	91.8%			
		人の役に立つ人間になりたいと答えた児童生徒の割合	目標	93.5%	95%	95%	95%	95%			A
		実績	93% (H29)	93.5%	—	95.4%	94.8%	95.2%			
学力を支える教師力の向上 2322	阿見町に愛着をもった教員が、創意工夫をして教育に取り組むことにより、子どもたちから信頼され、教員の資質向上が図られています。	教職員研修会（町単独分）	目標	56回	60回	60回	60回	60回	B	オンライン研修を含め、効果的な研修会の実施に向けて、各種研修会の持ち方を追究していく必要がある。	
実績	55回/年	56回	53回	54回	56回	56回					
自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進 2323	児童生徒一人ひとりが個性に応じた適切な教育を受けています。	特別支援教育支援員の配置	目標	32人	36人	36人	36人	30人	B	支援が必要な児童生徒は年々増加傾向であり、家庭からは強い要望がある。人数とともに勤務時間の拡充や、支援の質の向上が求められる。	
実績	25人	32人	32人	33人	35人	35人					
学習環境の充実 2324	児童生徒が、不安や悩みを気軽に相談できる体制が整い、安心して学習できる環境が整っています。	不登校児童生徒の割合	目標	2.0%	1.5%以下	1.5%以下	1.5%以下	1.5%以下	B	中学校では不登校対策指導員を導入し、校内フリースクールを開設した。解消に向けて、小学校への拡充を進める。	
実績	2.3%以下	2.0%	2.0%	3.0%	4.8%	3.8%					
地域に開かれた学校づくりの推進 2325	小中学校が地域にとって身近な学校として親しまれるとともに、児童生徒は地域の中で様々な人と交流しながら豊かな体験をして成長しています。	地域に学校を公開している日数	目標	12日	15日	15日	15日	15日以上	B	コロナ禍では学校への出入りを制限したがコロナ前に戻りつつある。地域に開かれた学校づくりの一環として、学校での取り組みを理解してもらう機会の充実を図っていく。	
		実績	10日 (H29)	12日	1日	3日	8日	10日			
		学校評議員会の実施回数	目標	3回	3回	3回	3回	3回以上	A	評議員制度からコミュニティ・スクールへの移行が進んでおり、保護者や地域住民の意向を把握し、地域社会に開かれた学校づくりを推進できるようにしていく必要がある。	
		実績	3回/年	3回	0回	1.5回	2回	3回			
保護者負担の軽減 2326	児童生徒が、家庭の経済状況等にかかわらず、安心して学習できる支援体制が整っています。	ランドセルの無料配布率	目標	100%	100%	100%	100%	100%	B	児童・保護者の要望を事業に反映していく必要がある。	
実績	無し	97.4%	97.3%	98.2%	95.7%	98.2%					

3 施策の進捗状況

指標等の成果を基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗が遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	学校教育課	
副担当課	課	指導室、学校給食センター	
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	3	豊かな人づくり
	項	3	児童生徒の健康管理と安全対策

1 目指すまちの姿

安全・安心、快適で質の高い教育環境が整い、児童生徒が健やかに成長しています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値							個別施策の達成状況	
				H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
健やかな体の 育成 2331	児童生徒が、規則正しい食生活やスポーツを通じて、健やかに成長し、生きる力が育まれています。	学校給食で茨城県産食材の占める割合【3316に再掲】	目標	92%	92%	92%	92%	92%	92%	A	学校給食の県産食材割合は、目標値を上回る実績となった。町内・県内産の食材を活用するよう、献立を工夫しながら今後も継続していく。 小・中学校スポーツテストの上位判定の児童生徒の割合が減少しており、小・中学校共に目標値を下回ってしまった。
		実績	92%	93.6%	96.2%	98.3%	100%	93.9%			
		小学校スポーツテスト(A+B)の割合	目標	46.0%	46.0%	47.0%	47.0%	53.0%	C		
		実績	45.48%	44.44%	—	36.57%	34.56%	38.1%			
		中学校スポーツテスト(A+B)の割合	目標	58.0%	58.0%	59.0%	59.0%	65.0%	C		
		実績	62.98%	56.82%	—	56.63%	56.4%	54.4%			
安全・安心な 教育環境の整備 2332	教育施設での危機管理体制の確立や施設の整備・改修が進み、安全・安心な教育環境が整備されています。	緊急情報システム(メール配信システム)の登録率	目標	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	A	緊急メール登録については、毎年児童生徒の入替があるものの、高い登録率となっている。 冷暖房等については、普通教室は設置されているものの、当初の目標外であるが特別教室への未設置校や全屋内体育施設が未設置である。	
		実績	95%(H29)	99.0%	99.2%	99.6%	99.2%	99.6%			
		小中学校冷暖房等設置率(普通教室)	目標	80%	100%	100%	100%	100%	A		
		実績	70%	100%	100%	100%	100%	100%			
質の高い教育環境の整備 2333	児童生徒が、居住地域等にかかわらず、適正に学べる望ましい教育環境が整っています。	大規模改修工事実施校数(トイレ改修)	目標	6校	7校	7校	7校	7校	A	R2年度で目標としていた7校校舎のトイレ改修が終了している。長寿命化計画に基づき学校施設の改修を実施していくことになるが、目標とした7校以外のトイレ改修が済んでいないため、当初の目標外ではあるが改修を考えていく必要がある。 長寿命化計画に基づき、学校施設の改修を進めていく。計画作成後も学校施設の状況を確認しながら必要に応じて長寿命化計画を見直す。	
		実績	5校	6校	7校	7校	7校	7校			
		学校施設長寿命化計画策定	目標	策定	策定済	策定済	策定済	策定済	A		
		実績	未策定	策定	策定済	策定済	策定済	策定済			
		目標									
		実績									

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	生涯学習課	
副担当課	課	予科練平和記念館、図書館、中央公民館	
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	4	いつでもどこでもだれでも学べるまちづくり
	項	1	生涯にわたって学べる環境づくり

1 目指すまちの姿

**町民ニーズや社会情勢の変化などに対応し、
町民が夢や生きがいを持って活躍できる生涯学習の推進体制が構築されています。**

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値						個別施策の達成状況	
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
生涯学習の充実 と社会参加の促進 2411	多くの町民が生涯学習に参加し、学習成果を活かして活躍しています。	生涯学習フェスティバルの参加者数	目標	15,500人	16,100人	16,800人	17,400人	18,000人	B	徐々に参加人数が戻りつつある。今後も町民に対して生涯学習をアピールできるような周知していく必要がある。
			実績	14,974人	13,723人	4,566人	2,606人	4,625人		
		人材バンク登録者数	目標	109人	113人	117人	121人	125人	B	
			実績	105人	108人	103人	94人	84人		
公民館・ふれあいセンターの充実 2412	町民ニーズに対応した魅力ある学習機会や活動の場が十分に提供されています。	公民館・ふれあいセンターの定期講座申込率	目標	96%	97%	98%	99%	100%	A	目標を大きく上回った。要因として、新規講座の開拓や、身近な生活に役立つ講座が増えてきたと考えられる。次年度からは夜間講座も始めることにより全世代に学習機会を提供していく。
			実績	96%	94%	116%	89%	97%		
ふれあい地区館活動の充実 2413	ふれあい地区館では、地域の特色に応じた魅力的な出前講座やイベントが開催され、多くの地域住民が参加しています。	ふれあい地区館活動の実施行政区数【1122の再掲】	目標	66行政区	66行政区	66行政区	66行政区	66行政区	C	新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで計画通り届ける生涯学習が実施できなかった。5月に5類に以降になったことで徐々にではあるが活動が戻りつつある。しかしながら、いまだ活動状況には地域差があるため、社会教育指導員と協力しながら届ける生涯学習の推進を図る。
			実績	58行政区	51行政区	3行政区	16行政区	17行政区		
図書館の充実 2414	図書館サービスが充実し、多くの人が図書館を利用しています。	図書館資料の年間貸出点数	目標	245,000点	245,250点	245,500点	245,750点	250,000点	B	令和5年度の貸出冊数は、回復傾向にあるものの未だ、コロナ禍以前の状態までの回復には至っていない。図書館では、さまざまなイベントを開催して、普段図書館を利用していない人を呼び込むキッカケづくりをしてきたが、よりきめ細やかな情報提供により新規利用増を見込む必要がある。
			実績	227,377点/年	230,233点	163,772点	171,919点	206,174点		
予科練平和記念館の充実 2415	予科練平和記念館を拠点として、平和教育を推進し、様々な人に平和の大切さが浸透しています。	予科練平和記念館の来館者数【1132の再掲】	目標	50,000人	51,000人	53,000人	55,000人	60,000人	B	令和5年度の入館者数はコロナ禍前のH30に対し、9割まで回復した。順調に回復していると判断する。 令和6年度中に累計来館者数70万人、さらに令和7年2月2日には開館15周年を迎えることから、これを契機に5万人超の来館者数を目指す。 平和教育の拠点として、多くの人に命の尊さや平和の大切さを考えてもらうために、企画展や講演会等のイベントを開催し、来館者を増やす必要がある。
			実績	51,128人/年	44,528人	19,546人	9,444人	35,073人		
		予科練平和記念館のイベント開催数【1132の再掲】	目標	12回	12回	13回	15回	15回	A	
			実績	12回/年	14回	0回	0回	6回		

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗が遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	生涯学習課	
副担当課	課	指導室	
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	4	いつでもどこでもだれでも学べるまちづくり
	項	2	社会全体で取り組む教育の推進

1 目指すまちの姿

地域・家庭・学校・行政が一体となり、地域全体で子どもたちの教育に取り組んでいます。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値						個別施策の達成状況	
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
家庭教育への支援 2421	家庭教育に関する学習機会の提供や人材育成のための経済的支援などが行われ、家庭の教育環境が向上しています。	家庭教育座談会への参加者数	目標	3,200人	3,400人	3,600人	3,800人	4,000人	B	親や子どもを取り巻く環境が変化中、学校だけでなく、地域等で親子の学びや育ちを支える環境を整備することが課題となっている。コロナ禍に比べ徐々に参加者数が回復している。
			実績	3,115人/年	2,456人	0人	295人	759人		
地域教育力の向上 2422	地域住民が一体となり、地域の子どもたちの教育を支援しています。	子ども会育成連合会事業参加者数	目標	4,500人	4,500人	4,500人	4,500人	4,500人	B	事業実施内容がコロナ禍前に戻つつも、少子化等により、実績は微弱減少の傾向にある。高校生会の協力等により、参加しやすい事業内容に変更し、事業見直を進めて来ているが、目標人数は超えているも、まだ前年比参加者増に至っていない。
			実績	4,619人/年	4,646人	5,016人	4,875人	4,687人		
青少年健全育成・体験活動の推進 2423	地域住民や団体によって、多くの豊かな人間性を育む体験活動の機会が提供されています。	学社連携事業参加人数	目標	33,000人	33,000人	33,000人	33,000人	33,000人	B	家庭・学校・地域が連携しながら、多様な学習の場や活動の場を提供し、子どもが「生きる力」を育む支援をするとともに、「開かれた学校」の実現へ取り組んでいく。
			実績	34,977人/年	35,533人	6,185人	6,523人	22,887人		
人権尊重の視点に たった生涯学習の 推進 2424	生涯学習を通じて、人権尊重の視点が地域社会に浸透しています。	人権教育講演会開催回数	目標	2回	2回	2回	2回	2回	B	人権尊重のための知識・技術・態度を養うため、人権教育講演会を実施する。
			実績	2回/年	2回	0回	2回	2回		
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	III

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	生涯学習課	
副担当課	課		
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	4	いつでもどこでもだれでも学べるまちづくり
	項	3	スポーツの振興

1 目指すまちの姿

町民の誰もが気軽にスポーツに親しめる環境が充実し、青少年の健全育成と町民の健康づくりに役立っています。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況		
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
活力ある生涯スポーツの振興 2431	より多くの町民が生涯スポーツに参加し、健康の維持・増進に取り組んでいます。	町民運動会の参加行政区率	目標	0%	91%	94%	97%	100%	B	子どもからお年寄りまで、さまざまなスポーツに自由に参加できるスポーツフェスタを開催した。
			実績	89%	0%	0%	0%	0%		
		スポーツ教室開催数	目標	2回	2回	3回	4回	5回以上/年	B	開催内容の検討を行い、競技種目が偏らないように教室を開催しているが、目標回数に達成することができなかった。
			実績	2回/年	1回	0回	3回	5回		
スポーツ施設の充実 2432	運動公園や体育館などのスポーツ施設のほか、学校体育館や公園などの身近な施設も活用し、多くの町民がスポーツを安全に楽しんでいます。	スポーツ施設の年間延べ利用者数	目標	235,000人	238,500人	242,000人	245,500人	250,000人	C	コロナ制限が緩和されたが、令和4年度より利用者が減少し、目標人数に達成することができなかった。
			実績	233,947人/年	207,965人	117,981人	127,580人	181,742人		
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II

令和6年度 施策評価シート

主担当課	課	生涯学習課	
副担当課	課	中央公民館	
総合計画の 位置づけ	章	2	人を育むまちづくり
	節	4	いつでもどこでもだれでも学べるまちづくり
	項	4	文化芸術活動の推進と文化財保護

1 目指すまちの姿

伝統文化の継承や文化芸術活動の育成・支援により、新たな町の文化が生まれ、
みんながふれあう文化芸術のまちづくりが進んでいます。

2 個別施策の目標達成状況

個別施策名 (施策コード)	後期の成果	指標名	基準値及び目標値					個別施策の達成状況		
			H30 (基準)	R1	R2	R3	R4	R5	評価	個別施策の課題
文化芸術活動の 推進 2441	文化啓発のためのイベント・展示会などが多く開催され、質の高い文化にふれる機会や町民の作品等を発表する機会が増えています。	芸術展への出展作品数	目標	730点	840点	950点	1,000点	1,100点	B	コロナ禍で中止していた芸術展を4年ぶりに開催することができた。出展数についてはコロナ禍前の実績になるよう周知・啓発を図っていく。
		実績	674点/年	827点	中止	中止	中止	223点		
		音楽で元気にするまちづくり事業の参加者数	目標	2,200人	2,300人	2,600人	2,900人	3,200人	B	音楽をとおして地域住民の交流や地域の活性化を図る。また魅力的な事業を提供するとともに情報の周知を図る。
実績	2,297人/年	1,963人	中止	中止	822人	1,636人				
文化芸術ボランティア登録数		目標	4人	8人	12人	16人	20人	B	文化・芸術を振興は、町民の協力が必要であるので、ボランティア登録への周知を行い、育成を図る。	
		実績	2人	4人	6人	5人	6人			7人
文化財保護・活用 2442	地域の伝統文化を継承していくための取組みや文化財の保護・活用が進んでいます。	伝統芸能まつり参加団体	目標	10団体以上	10団体以上	10団体以上	10団体以上	10団体以上	A	町民に広く町の歴史や伝統芸能を紹介し、次世代へ継承していくため取り組むとともに、文化財の保護・活用を図っていく。参加団体については目標値を上回る団体数の参加が得られた。
実績	10団体	13団体	中止	中止	中止	12団体				
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							
			目標							
			実績							

3 施策の進捗状況

指標等の成果を 基に総合的に評価	区分	進捗状況区分を選択した理由
	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている	B

4 今後の方向性

手段を見直す必要性を評価	区分	方向性区分を選択した理由及び今後の方向性
	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要	II